

二〇二〇年度センター活動報告

1 構成

本年度のセンタースタッフは、絵画史料分野・高橋敏子（教授・センター長）、藤原重雄（准教授）、稲田奈津子（准教授）、画像史料分野・杉森玲子（准教授）、黒嶋敏（准教授）、古文書画像分野・井上聡（准教授）の六名で、昨年度に引き続き大山航氏（埼玉工業大学）に客員教授をお願いした。同運営委員会は、スタッフ六名に、石津裕之（助教）、岡本真（助教）、伴瀬明美（准教授）、前川祐一郎（准教授・委員長）を加えた一〇名で構成した。

2 プロジェクト研究活動

本年度、絵画史料（①～⑦）・画像史料（⑧～⑩）・古文書画像（⑪～⑭）の各分野あわせて一四件の研究プロジェクトが活動を行った。各プロジェクトのメンバーおよび活動の概要は以下の通りである。

① 荘園絵図プロジェクト

〔メンバー〕 榎原雅治（代表）、稲田奈津子、井上聡、遠藤基郎、及川亘、鴨川達夫、川本慎自、菊地大樹、久留島典子、末柄豊、高橋慎一郎、高橋敏子、高山さやか、谷昭佳、鶴田啓、伴瀬明美、藤原重雄、前川祐一郎、村井祐樹、村岡ゆかり、山口英男、山家浩樹、岩井（鈴木）沙織（学術支援専門職員）、土山祐之（同）、林譲（共同研究員・駒澤大学）、安田次郎（同・お茶の水女子大学名誉教授）

〔活動の概要〕 『日本荘園絵図聚影釈文編三 中世二』の刊行／国立公文書館、天理大学図書館における原本校正／本学文学部所蔵西大寺関係絵図の調査／『日本荘園絵図聚影釈文編四 中世三』収録予定の図の整理、トレース図、釈文、釈文貼込図の作成

② 長篠合戦図屏風プロジェクト

〔メンバー〕 金子拓（代表）、藤原重雄、黒嶋敏、村岡ゆかり、薄田大輔（共同研究員・徳川美術館）、白水正（同・犬山城白帝文庫）、津田卓子（同・名古屋博物館）・原史彦（同・名古屋城調査研究センター）・阪野智啓（同・愛知県立芸術大学）・藤本正行（同・國學院大学）、三宅秀和（同・群馬県立女子大学）

〔活動の概要〕 史料編纂所特定共同研究「東アジアの合戦図の比較研究」（代表者・須田牧子）との連携

③ 中近世肖像画研究プロジェクト

〔メンバー〕 藤原重雄（代表）、松澤克行、西田友広、太田まり子（研究支援推進員）、高岸輝（共同研究員・本学人文社会学系研究科）、藤井恵介（同・本学名誉教授）

〔活動の概要〕 新潟県村上市藤基神社所蔵内藤家歴代肖像画の調査／益田家所蔵史料（本所寄託）の「須佐十二景詩歌」関係絵巻・書巻の撮影／宮内庁書陵部所蔵「中井家文書」の指図類の分析／未入架の模写について再調査／歴史絵引データベース・肖像画模本データベースのデータ修正と追加／肖像情報データベースのデータ新規作成

④ 近世都市図解析プロジェクト

〔メンバー〕 山口和夫（代表）、及川亘、藤原重雄、杉森哲也（共同研究員・放送大学）、西山剛（同・京都文化博物館）

〔活動の概要〕 洛中洛外図屏風諸本・都市図の図版・解説文等が記された図録・図書の収集／『民衆史研究』九九号に論考掲載（西山）

⑤ 港湾都市図研究プロジェクト

〔メンバー〕 黒嶋敏（代表）、須田牧子、畑山周平、渡辺美季（共同研究員・本学総合文化研究科）

〔活動の概要〕 科学研究費補助金基盤研究(B)「南西諸島における海上交通の復元的研究―帆船の時代」の「歴史航海図―」（研究代表者・黒嶋敏）との連携／『首里城研究』二二二号に論考掲載（黒嶋、共著）／国立歴史民俗博物館における所蔵史料の調査／センター通信九〇号に論考（黒嶋・渡

辺・須田) 及び文献案内(畑山) 掲載/本所所蔵正保琉球絵図のデジタルスキヤニング/特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」(国立歴史民俗博物館) に協力

⑥地震関係絵画史料プロジェクト

(メンバー) 杉森玲子(代表)

〔活動の概要〕三康図書館所蔵「安政大地震絵巻」の画像データによる本所所蔵島津家文書「江戸大地震之図」との比較検討

⑦正倉院宝物図プロジェクト

(メンバー) 稲田奈津子(代表)、山口英男、藤原重雄、新井重行(共同研究員・宮内庁書陵部)

〔活動の概要〕宮内庁書陵部図書寮文庫資料中の正倉院宝物図関連資料のデジタル撮影・デジタルデータ化

⑧古写真研究プロジェクト

(メンバー) 保谷徹(代表)、谷昭佳、高山さやか、箱石大、高橋則英(共同研究員・日本大学)、吉田成(同・東京工芸大学)、遠藤楽子(同・東京国立博物館)

〔活動の概要〕大阪適塾関係古写真「岡家所蔵肖像写真」の調査・撮影/中国新聞社所蔵「一九四五年八月六日松重美人撮影の被爆写真ガラス原板とネガフィルム」の調査/広島市平和記念資料館所蔵「被爆関係写真ガラス原板とネガフィルム」の調査・撮影/松重美人撮影ネガフィルムの組成検査(東京都写真美術館保存科学室にて)/横山松三郎古写真資料(本所寄託)の調査/本島・塩飽勤番所跡資料館保管コロジオンガラス原板写真の調査・撮影/長崎大学附属図書館所蔵ボードインコレクション収集紙焼付写真アルバムの修理検討会(京都国立博物館)出席/沖縄県立芸術大学附属図書・美術資料館所蔵鎌倉芳太郎撮影ガラス乾板修理検討委員会(東京国立文化財研究所)出席/海外調査のための関連文献の委託翻訳/菊池海荘家コレクションの保全作業/菊池本家資料の受け入れ/センター通信九一号に論考掲載(谷)/国立国会図書館にて講演(谷)/平出歴史大学

(塩尻市)にて講演(保谷)

⑨戊辰戦争期摺物画像研究プロジェクト

(メンバー) 箱石大(代表)、保谷徹

〔活動の概要〕科学研究費補助金/基盤研究(B)「維新政権期の木版刊物に関する学際的研究およびオープンサイエンスの推進」(研究代表者・藤實久美子、国文学研究資料館)との連携/昨年度までに収集した板木・木活字データの整理と分析/関係史料が撮影されているマイクロフィルムのデジタル化

⑩本所における画像史料の複製集積過程の研究プロジェクト

(メンバー) 井上聡(代表)、山家浩樹、尾上陽介、金子拓、藤原重雄、谷昭佳、高山さやか、宮地正人(共同研究員・本学名誉教授)

〔活動の概要〕前年度撮影した辻善之助資料の分析/「往復」をもとに本所における画像史料複製(特に模写史料)の生成過程と蓄積経緯を追跡/未入架大型絵図模本の修復

⑪花押彙纂等の花押画像データベース統合化プロジェクト

(メンバー) 川本慎自(代表)、井上聡、戸谷穂高(学術支援専門職員)、大山航(客員教授)、林讓(共同研究員・駒澤大学)

〔活動の概要〕科学研究費補助金/基盤研究(A)「筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―」(研究代表者・末柄豊)との連携/統合型花押データベースの整備/『花押彙纂』第二編〜第四・五編入力データの校正/オンライン研究会「歴史情報研究の展開―文理融合研究のかたち―」にて報告(大山)

⑫電子くずし字典データベース開発プロジェクト

(メンバー) 久留島典子(代表)、小宮木代良、松澤克行、稲田奈津子、遠藤珠紀、井上聡、宮崎肇(特任研究員)

〔活動の概要〕科学研究費補助金/基盤研究(A)「筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―」(研究代表者・末柄豊)

および基盤研究(S)「木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開」(研究代表者・馬場基、奈良文化財研究所)との連携/本所所蔵貴重史料ほか広橋家史料等近世史料を中心とした新規データ登録(一八八五四件) / III およびオープンデータの活用を前提とした歴史的字形の横断検索の拡張と連携(国文学研究資料館・国立国語学研究所・京都大学人文科学研究所・中央研究院歴史語言研究所 および数位文化中心と)

⑬ 本所所蔵台紙写真・ガラス乾板に関する研究プロジェクト

〔メンバー〕 久留島典子(代表)、保谷徹、箱石大、藤原重雄、谷昭佳、高山さやか、井上聡

〔活動の概要〕 ガラス乾板の保全とデータ作成/中国新聞社所蔵「松重美人撮影による被爆関係写真資料(ガラス乾板・フィルム類)」の調査・撮影/徳島県立博物館所蔵「工藤利三郎関係資料」の調査・撮影/センター通信九一号に論考掲載(谷) / 国立国会図書館憲政資料室にて講演(谷)

⑭ 金石文拓本史料の整理と公開プロジェクト

〔メンバー〕 菊地大樹(代表)、稲田奈津子、井上聡、金子拓、川本慎貞、高橋慎一郎、藤原重雄

〔活動の概要〕 科学研究費補助金基盤研究(A)「デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究」(研究代表者・菊地大樹) および史料編纂所一般共同研究「中世大和国宇智郡関連史料の研究資源化―栄山寺を中心に―」(代表者・下村周太郎)との連携/奈良県五条市栄山寺金石文史料の拓本採集/資料整理ならびにデータベース改良について研究


3 センターまたは研究プロジェクト共催の研究集会等

オンライン研究会「歴史情報研究の展開―文理融合研究のかたち―」(二〇二〇年一〇月一二日、前近代日本史情報国際センター・画像史料解析センター共催、センター通信九一号に報告を掲載)

特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」への協力(二〇二二年三月一六日〜五月九日、国立歴史民俗博物館、港湾都市図研プロジェクト)

4 センター通信の発行

八九号(二〇二〇年四月、二四頁)、九〇号(二〇二〇年一〇月、四〇頁)、九一号(二〇二一年一月、三六頁)。例年より一号少ない発行となった。各号の目次は、<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/gazo/centernewslist.htm>にも掲載されている。なお、八七号以降の誌面は、東京大学学術機関リポジトリ(<https://repository.dlirc.u-tokyo.ac.jp/>)にてPDF公開されている。(前川祐一郎)



東京大学史料編纂所
HISTORIOGRAPHICAL INSTITUTE
The University of Tokyo

本所ロゴマークの制定

2019年度に近代修史事業開始150周年を迎えたことを機に、2021年4月、史料編纂所は新たにロゴマークを制定しました。

史料を紐解き、永くつながる「歴史」を編む、という史料編纂所の基幹事業をイメージしたデザインです。単色で、白黒反転のほかに、藍色・杜若色(32頁参照)の二種のカラーを用います。